

# 令和2年度 兵庫県立伊丹高等学校 学校評価

## 1 基本方針、育成する人物像、育成する資質・能力

基本方針	ア 人への信頼と愛情を基盤とした、誠実な社会人に必要な知、徳、体を調和して高めるとともに、優れた実践力を持つ個性を育成する。 イ 自己の特性を発揮するとともに、他人への思いやりの心をもって、社会の平和及び文化の向上に資する人物を育成する。 ウ そのため、創立以来118年間受け継いできた歴史と伝統を継承するとともに、時代の進展や社会の発展に対応する校風を樹立する。
育成する人物像	グローバル・リーダー＝世界（グローバル）や地域（ローカル）の課題を自分の課題とし、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動する人物
育成する資質・能力	ア 確かな学力 (7) 読解力（知識・技能を身に付け、ありのままに理解する力） (1) 思考力（知識・技能を活用し、論理的・批判的に考え、判断する力） (7) 協働力（貢献の意志を持ち、多様な人々とともに活動する力） (2) 探究力（自ら問いを発生し、調査・研究を深め、発信する力） イ 豊かな心（校訓） (7) 誠実（偽りのない真心） (1) 克己（己に打ち克つ心） (7) 忠恕（他を思いやる心） ウ 健やかな体 (7) 体力・運動能力 (1) 健康・安全意識

## 2 重点目標

本年度からの中期計画として、「県高SAKURAプロジェクト」を実施する。
ア テーマ グローバル・リーダーを育成するため、学校教育全体で海外や地域社会との参画協働体制を構築し、多様な活動（授業、行事等）を実施する。
イ 体制 (7) 校内組織の再編 企画国際部を新設。テーマに沿って教育活動を整理し、全体を1つのプロジェクトとして企画し、運営を進める。 (1) コンソーシアムの構築 参画・協働を図る組織の代表者によるコンソーシアムを形成、プロジェクトを含む学校経営に指導助言を受ける。
ウ 内容 5つの特色ある教育活動を推進するとともに、地域に積極的に広報する。 ① 探究活動 ② 理数活動 ③ 国際活動 ④ ことば文化活動 ⑤ 自主活動

## 3 自己評価 項目ごとに5,4,2,1点の4段階で評価。達成状況は、A…平均4.0以上 B…平均3.0以上4.0未満 C…平均3.0未満。

基本方針	基本的方向	施策	取組	達成状況			取組状況・改善方策	
				取組	昨年比	総合		
「生きる力」を育む教育の推進	「確かな学力」の育成	学力向上の推進	1.アクティブ・ラーニングの実施	B(3.7)	0.3	B	○アクティブラーニングの効果をよく理解した上で、その評価や検証の方法を確立することが課題。 ○言語能力（国語）についても少人数授業について検討を進めたい。  ○海外探究活動や国際交流は、多くが実施できなかった。 ○台中二中との交流のための特設サイトを開設（限定公開）。  ○GLISを軸に理数教育を全校的な取組として発展させる。 ○理数教育と英語コミュニケーション力の育成をともに目指す活動が必要。  ○本年度実施できなかった県伊祭を継承・発展させるチャンス・メイクの仕掛けが重要。 ○生徒主体の校風を培い、自分たちで考え、行動できる力を育成すべきである。	
			2.習熟度別少人数授業（英・数）の実施	A(4.2)	-0.1			
			3.S Tでの言語活動等の実施	A(4.1)	0.1			
			4.補習（平常・長期休業中）の実施	B(3.6)	-0.4			
		国際理解を深める教育	5.英語4技能試験の活用	B(3.9)	-0.2	B		
			6.海外探究活動・海外語学研修の実施	C(2.8)	-1.7			
			7.国際交流（姉妹校訪問・受け入れ）	C(2.7)	-1.4			
		理数教育の充実	8.大学模擬授業、大学フォーラムへの参加	B(3.5)	-0.3	B		
			9.GLiSコミュニケーションワークの実施	B(3.5)	-0.2			
			10.ALTによる英語による科学実験講座	B(3.6)	0.1			
	11.校訓に基づいた校風の醸成		B(3.7)	0.4	B			
	人間力の育成	12.生徒会活動の活性化	A(4.0)	±0.0				
		13.生徒主体の県伊祭（文化祭）	B(3.0)	-1.3				
	「豊かな心」の育成	ふるさと意識の醸成	14.地域課題探究の実施	C(2.6)	-1.2	A		
			15.生徒主体の体育祭・球技大会	A(4.3)	±0.0			
		心・技・体の醸成	16.活動方針に基づいた部活動の実施	A(4.2)	0.6			
			健康教育・安全教育	17.登下校等の安全確保	B(3.7)		0.5	
	18.WBGTによる熱中症対策	A(4.0)		0.3				
子どもたちの学びを支える環境の充実	教職員の資質・能力の向上	教職員の資質・能力の向上	19.研究授業週間等、授業改善の取組	B(3.8)	0.1	B	○研究授業週間を設定するとともに、探究活動やICT活用などの授業研究を行った。 ○Edmodoによる双方向コミュニケーションが確立できた。今後も教職員のICT機器への対応力の育成が急務。  ○大型プロジェクター、タブレットの整備に伴い、ICT推進委員会が機能的に活動。 ○コロナ禍での生徒一人一人へのきめ細かな支援・指導が必要。 ○地元企業との連携が減少。  ○オープンハイスクールは時期を変更、回数を増やして実施。生徒による説明・活動披露が好評であった。 ○PTAの一斉メールは、臨時休業中を中心に登録数・活用ともに増加した。 ○同窓会、PTAの学校活動への参加と支援は本校の大きな力となっている。	
			20.外部研修への参加・校内研修の実施	B(3.3)	-0.1			
			21.ICT機器の活用・研究	B(3.9)	0.2			
		教職員の働き方改革の推進	22.校務支援システムの運用	A(4.4)	0.1			
			23.定時退勤日、ノー会議デーの徹底	C(2.6)	0.4			
			学校の組織力の強化	24.情報管理等に係る「申し合わせ」の整備	B(3.3)			-0.3
	25.校内委員会等の活性化	B(3.5)		0.4				
	26.いじめアンケートによる早期発見・対応	A(4.3)		0.1				
	家庭と地域による学校と連携した教育の推進	情報共有	27.地元企業・大学等との連携	B(3.1)	-0.8	A		
			家庭との協働	28.PTAと連携した一斉メール配信	A(4.0)			0.1
				29.広報誌「緑樹」、学校通信等の発行	A(4.4)			0.1
		地域への情報発信		30.管理職による中学校説明会の参加	A(4.4)			0.1
31.生徒主体のオープンハイスクール			A(4.1)	0.3				
32.同窓会・PTAとの参画・協働			A(4.2)	0.3				
33.学校評議員会、学校評価の改革	B(4.0)	0.3						

## 5 学校関係者評価（総合）

○予期せぬ新型コロナの影響により、学校としては大変苦勞したと思う。その中でできることを工夫し、多くのこと取り組まれたことに敬意を表する。
○これからの時代に即してグローバルリーダーの育成を目標に掲げているのは適切である。卒業生である奥克彦さんのような人物を今後も輩出してほしい。
○重点目標に「県高SAKURAプロジェクト」の各活動が紐付けられている。学校全体として何に取り組もうとしているのかがよくわかり評価できる。
○重点目標として、英語力の教科に取り組みしてほしい。国際活動において英語力の重要性は学校も認識しており、メリハリをつけて学力向上に取り組んでほしい。

## 6 自己評価への関係者評価

評価項目ごとの評価	
○探究活動について、生徒に達成させる目標を学校としてイメージ、その理想に向けて学校としてどのように取り組むのかというプランが必要である。	○コロナ禍は来年度も続く想定される。国際活動は制限を受けることを前提に計画を立てるべきである。
○PDCAサイクルの観点からいえば、客観評価が可能となる計量的エビデンスも示していただきたい。	○市内の中学校では理科の自由研究発表会を実施している。優れた取り組みも多く、生徒から質問がたくさん出るような発表会の持ち方も参考になるのではないかと。
○取組内容は大きい評価できる。生徒の承認欲求が満たされるような活動の推進をお願いしたい。	○高校時代は一生関わりを持つ人間関係ができる重要な3年間である。同級生、先輩、後輩、教員などとの繋がりを大切に、豊かな心を育成してほしい。
○「人間力」や「ふるさと意識」について、何がどうなれば目標が達成されるのか。規準がないと評価が難しい。	○総合評価はAなのに安全意識や気温等の測定方法に課題があるとの指摘はどう理解すればよいのか。学校がどのように認識しているのか、整合性のある説明が必要。
○研究授業によく取り組まれた。教員が相互に授業を公開し、高めようとする日常の取組は、高等学校では一つの「財産」と言ってよい。	○教職員の心身の健康は生徒たちにも影響する。働き方改革について、たとえばパソコンが使用できる時間設定など、管理職が率先して対策を講じる必要がある。
○ICT環境への対応が急がれる中、ICT推進委員会に業務が集中しないよう配慮が望まれる。	○企業や行政にはプレゼンのノウハウや課題研究の事例の蓄積等がある。学校に協力できることもあると思うので必要の際は連絡願いたい。
○学校評価は教職員の自己点検だけではどうしても甘くなる傾向がある。生徒や保護者のアンケートと比較して、教職員の毛かど差のある項目について着目してはどうか。	○FMへの出演やHPの更新等、学校の広報としても地域との連携としても高く評価する。今後も質の高い情報発信を続けてほしい。

## 4 兵庫県教職員資質向上指標による自己点検 5段階で評価したのち、3段階（できている・できていない・わからない）の人数割合を表示。

分野	資産	教員としての資質の向上に関する指標	達成状況			【参考】令和元年度
			よくできている まあまあできている	あまりできていない できていない	わからない	
学習指導	授業実践力・授業改善力	1.学校教育目標や児童生徒の実態を踏まえた年間指導計画を作成し、計画的に授業を進めることができる。	78.7%	17.0%	4.3%	78.3% 19.6% 2.2%
		2.学習指導要領の目標や内容に基づき、児童生徒の実態に応じた授業を設計することができる。	85.1%	8.5%	6.4%	80.4% 17.4% 2.2%
		3.主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに取り組むことができる。	83.0%	12.8%	4.3%	63.0% 28.3% 8.7%
		4.評価規準等に基づき、児童生徒の学習状況を把握・評価し、指導方法の改善につなげることができる。	78.7%	10.6%	10.6%	69.6% 26.1% 4.3%
		5.わかる授業づくりに向けて、ICT機器等を活用することができる。	61.7%	34.0%	4.3%	37.0% 54.3% 8.7%
学級・HR経営	集団を高める力	6.いじめ、不登校などの教育課題の緊急性や重要性を理解し、その予防・解決に取り組むことができる。	93.6%	4.3%	2.1%	85.4% 8.3% 6.3%
		7.学年・学級目標の実現に向け、学級経営案やホームルーム計画の立案・実行・改善ができ、児童生徒が安心して過ごせる学級づくりに取り組むことができる。	84.8%	2.2%	13.0%	74.5% 6.4% 19.1%
		8.児童生徒との適切な距離を保ちながら、生活背景や内面の理解に努め、カウンセリングマインドとストレスマネジメントに基づく指導を行うことができる。	89.4%	4.3%	6.4%	76.6% 14.9% 8.5%
チーム体制で組織を担う	協働性・同僚性	9.保護者や関係機関と連携を図りながら、個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成できる。	70.2%	19.1%	10.6%	60.4% 25.0% 14.6%
		10.「教職員の勤務時間適正化推進プラン」をもとに、ワーク・ライフ・バランスや勤務時間の適正化を意識しながら、計画的に仕事を進めることができる。	44.7%	53.2%	2.1%	45.8% 52.1% 2.1%
		11.児童生徒への指導等に関して、同僚・先輩や管理職等に相談し、指導に生かすことができる。	91.5%	2.1%	6.4%	91.7% 6.3% 2.1%
		12.校内における自分の役割を認識し、校務分掌を的確かつ効率的に遂行できる。	89.4%	8.5%	2.1%	89.6% 10.4%
資質を高める自律性	自己管理能力・変革力	13.校内の情報を適切に管理し、取り扱うことができる。	97.9%	2.1%	2.1%	91.7% 6.3% 2.1%
		14.学校安全のための危機管理を理解し、事件や事故、トラブルに適切に対応することができる。	93.6%	2.1%	4.3%	83.0% 17.0%
		15.日頃から、ストレスマネジメントに努めるとともに、教員として自覚ある行動をとることができる。	93.6%	6.4%	2.1%	85.4% 14.6%
		16.適切な言動を心がけ、児童生徒や保護者等からの信頼確保に努めている。	100.0%			91.7% 6.3% 2.1%
		17.日々の実践等を振り返り、自らの教育活動の工夫・改善に努めている。	97.9%	2.1%	2.1%	79.2% 18.8% 2.1%